

## 5 - 3 京都周辺における最近の地震活動 - 特に 1972.8.31 の美山町の地震に関連して - Seismic Activity in the Vicinity of Kyoto

京大理 岡野健之助・平野 勇  
Kennosuke Okano and Isamu Hirano,  
Kyoto University

### 1. 最近の地震活動

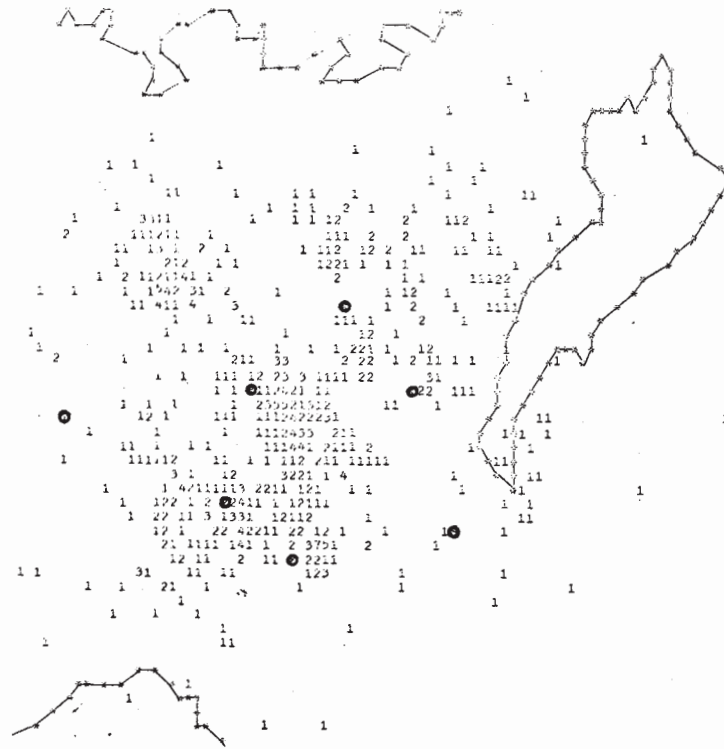
第1図は1972年の1月から10月までの震央分布図である。これを1970, 1971年の分布(会報第8巻)と比べると、大勢としては、特に変わった点は認められないが、ただ京都市西部桂川沿いの左岸に aseismic zone が顕著になった点が注意を引く。この地域は、1970, 1971年でも活動度の低い地域であったが、今年(1972)の分布では特に著しく、その領域も西方に、広がったように見える。勿論これは震源決定の精度の問題があるので早急に結論を下せないが、今後充分注意を要することと考えられる。

### 2. 1972.8.31 京都府北部(美山町)の地震について

第2図は阿武山地震観測所の強震計( $T_0 = 6.0\text{sec}$ ,  $V = 15$ )のEW成分の記録である。比較のために1968.8.18 京都府北西部(和知町)の地震の同じ地震計による記録をならべてあるが、地図に記入してある震央を見ると分かるように、P~S時間はほぼ等しく、最大振幅も又ほぼ等しいにもかかわらず、その波形は全く異っている。前者は短周期の、後者は長周期の波が卓越している。これは伝播径路の相異による波の減衰の差によるものかも知れないが、波の波長の点を考えるとむしろ震源機構の違いによると考えた方がよさそうである。そうすると地震の起る地域によって地震波の周期が異なると考えてもよいのかも知れない。

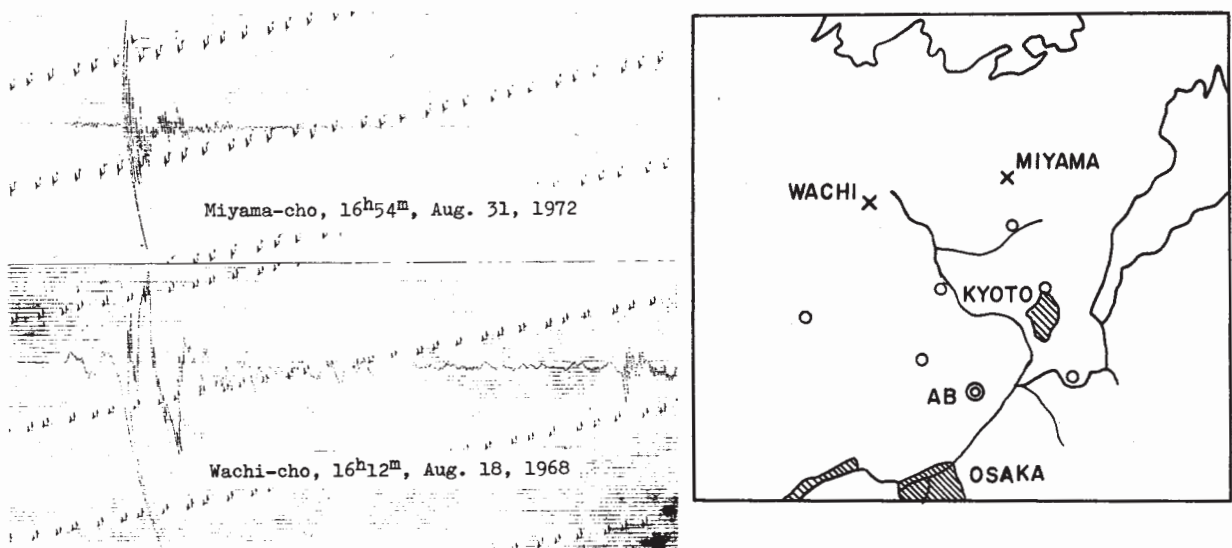
筆者等は、以前から京都周辺の地震の余震のつき方、地震波の減衰等について、地域的な特徴があるものと考えているが、震源機構にも地域性のあることが考えられるようになった。ここには和知町の地震だけを比較のために示したが、この地震帯の南の地域で起った地震の同じ強震計の記録は、北の地域のものに比べて長周期の波が卓越しているのが見られる。

以上のことから、この地域においては、北部地域の方が stress の集中が大きいと考えてよいのではなかろうか。



第1図 京都付近の震央分布（1972年1月～10月）

Fig. 1 Distribution of earthquakes in the vicinity of Kyoto (Jan. ~ Oct., 1972)



第2図 美山町と和知町の地震の、阿武山における地震記象と震央の位置

Fig. 2 Seismograms of the earthquakes of Miyama-cho and Wachi-cho with their epicenter locations